

氏名	吉川 あゆみ
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第5767号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	The sexual lives of breast cancer patients: Coping with changes associated with treatment (乳がん患者の性生活－治療に伴う変化に対するコーピング－)
論文審査委員	教授 深井喜代子 教授 谷垣静子 教授 兵藤好美

### 学位論文内容の要旨

乳がん術後に生じる性生活の変化に対する患者自身のコーピング法を明らかにし、患者とそのパートナーへの支援方法を探ることを目的に研究を行った。対象者は、乳がん術後にホルモン療法中の患者37名であり、分析方法はストラウス&コービンのグラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。その結果、乳がん患者の性生活は4つの状況に分類されたが、乳がん罹患前後で性生活の状況に大きな変化はみられなかった。また、乳がん患者の性行為には5つの意味が含まれており、乳がん罹患後の性生活へのコーピング法は6種類に分けることができた。これに基づいて、看護師は、乳がん患者が求める性行為の意味を見極め、適切な支援方法を選択し、患者をサポートする必要があると考えられた。

### 論文審査結果の要旨

この研究は乳がん術後の性生活の変化と患者のコーピングを明らかにし、患者の支援方法を見出すことを目的に、質的研究デザインによって遂行された。37名の乳がん患者にin-depth interviewを行い、データ分析にはグラウンデッドセオリーアプローチが用いられた。但し、この研究では質的研究に標準的なデータ収集と分析を交互に実施するのではなく、データ収集終了後に分析が行われたため、対象の複雑な背景要因を統合した形での理論的飽和に至るには多くの時間を要した。分析の結果、乳がん患者の性生活は4つの状況に分類されること、性行為には5つの意味が含まれていること、罹患後の性生活へのコーピング法は6つに分類されること、を見出すに至り、看護師の支援方法への示唆を得た。課題の特徴から本領域の研究は希有であり、得られた知見の新奇性は高い。研究目的に対するデータ収集及び分析方法には限界があり課題も残るが、難題に挑む姿勢と、生涯初の学術論文を英文で書き上げる能力など、看護学研究者としての申請者の将来性は大いに期待できる。

以上より、本論文は保健学研究科看護学分野における博士論文に適合すると判定した。